

ぴっくす

まちの話題



『くのにの松原でネイチャーゲーム』

9月14日、15日の2日間、くのにの松原で『自然のあしあと』と題したネイチャーゲームが行われました。

ネイチャーゲームは自然体験型のゲームで、鹿児島県ネイチャーゲーム協会の曾於ネイチャーゲームの会が主催して行われ、当日は郡内の小学生から大人まで約30人が参加しました。

この2日間では、『出会いのゲーム』や夜に活動する動物との遭遇を目的とした『夜の観察』、『海がめの放流』、松ぼっくりや貝殻などの自然にあるものを使った工作『ネイチャークラフト』などをし、参加した人達にとっては楽しい自然体験になったようです。



『仮宿下に2本の巨木』

仮宿下集落内には、町木になっている『くすの木』と『一つ葉の木』の巨木があります。

『くすの木』は、西寛さんの竹山にあり、周囲の人もなかなか気付かないようで、幹周りは3.4メートル、高さは約25メートル、樹齢は、西さんによると、約150年くらいではないかとのことです。

また、『一つ葉の木』のほうは、福原俊夫さん宅の敷地内にあり、幹周りは2.7メートル、高さは約20メートルで、樹齢は不詳だそうです。

この2本の巨木の情報提供者である福原成雄さんも、「これだけの大きい木は町内でも、なかなかねど。横綱級じゃが。」とおっしゃっていました。



「くすの木」



「一つ葉の木」



『校内で海がめを^{ふか}孵化させ、放流』

大丸小学校では、校内に海がめ^{ふか}の孵化場を設置し、総合的な学習の時間を使って海がめについての学習や観察を行っています。

その孵化場で、今回、105匹の海がめが孵化し、全児童83人と特別参加した立小野小学校の子ども達8人が一緒に、横瀬海岸に放流しました。

放流前の説明で、海がめが親になる確率は、5,000匹に1匹の割合とのことで、子ども達は、「いつかまた、この海岸に戻ってきてね。」と、願いを込めながら放流していました。



海がめ^{ふか}の孵化場